

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスに位置づけられた理念を作っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	人事の異動や採用の際は、理念を伝え理解してもらい、管理者、職員各自が自分達の役割を自覚し、常に心に留められるよう見につくところに提示してある。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、自治会、家族へ契約時には必ず理念を伝え、同意を頂いている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	冬場を除いては、町内へ散歩へ出かけ、行き会う方々に挨拶をしている。また、小学校の運動会を見学したり、地域の清掃業務には欠かさず参加し、交流の機会場として大切にしている。	○ 毎日の行事の中に、ご近所の方との交流を深めるためのお茶会などを企画してみたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を全職員理解している。自己評価もグループホームのあるべき姿として実践できるよう全員で行っている。また外部評価の結果については、スタッフミーティングで報告し、改善すべき点については全員で案を出し合い努力している。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出して頂いた意見を生かし、その結果を報告している。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現段階では会議以外の行き来はもたれていないが、市のグループホーム協会と行政との話し合いに参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修へ出向き、学んできた事を勉強会として報告し、知識を広めている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、参加者からミーティングで報告してもらい、全職員周知し努めている。虐待が見過ごされていないか、声かけ・態度・対応についてお互いに注意し合っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には時間を取り、丁寧に説明を行い、家族の不安、疑問点の解消に努力している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の日常の様子の中から察知できるよう気を配り、利用者の方が満足できるような解決策を本人の立場に立った見方で改善策を練っている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月手紙を送り、その日の様子を報告したり、状態に変化があった場合は、随時電話をかけたたり面会時には近況報告をしている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や家族会の際、意見・苦情をお受けする声かけをしたり、ホーム内の目のつくところに受付用紙を設置している。苦情が寄せられた場合、法人の苦情解決委員会に提出し、速やかに検討し、サービスの改善につなげている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングで、意見、提案を聞き出し、法人の運営委員会で話し合われ反映させている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要にあわせ人数を調整している。また、夜間緊急時に備え、待機者を決めて対応できるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動、離職は必要最低限にとめられるよう努力している。異動がある場合、早目に細やかな申し送りをし、今までと変わりのないケアが継続され、ダメージを妨げられるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や力量に合わせ、外部研修の参加を実施している。法人全体では研修委員会であり、内部研修を企画し積極的に参加している。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との情報交換や、ネットワーク作りができる意識を持ち、グループホーム協議会研修、グループワークに参加している。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人の職員が楽しめるよう、ボーリング大会を開催したり、施設見学を兼ねた慰安旅行を計画し実施している。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人独自の自己評価があり、自己の目標など書いている。また、個人面談を行ったり資格取得に向けた支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問を行い、利用者の心身の状態を確認し家族の不安意向など十分に聞き取り対応できること出来ないことなど説明し理解していただいている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から「その時」必要としている支援は何かを見極める。グループホームが適しているものか、また、他のサービス情報も提供し、十分相談の上、入居や他サービスの紹介など方向づけている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に施設見学を行っている。自宅での過ごし方や好きなこと、嫌いなこと、興味を持たれていることなど、情報をいただき関わりを深めている。面会の間隔等も家族と相談し、様子を見てきて頂ける配慮をとっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の風習や料理の方法、戦争時代の苦しい体験など学ぶことが多い。人生の大先輩として尊敬し、関わりを持っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日常の様子を報告し、困り事があれば、家族に相談し、また家族からの相談を受け、お互いヒントやアイディアを出し合い、共に本人を支えている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事等に家族をお誘いしながら関係の継続に努めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご夫婦で入居されている方もおられ、別々の場所におられる為、時間がある時は面会に行っている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の活動の中で、入居者の方同士で助け合う場面を意図的に設けたり、一同が集まりレクリエーションをしたりと、その中で利用者がお互い良好な関係が築かれるよう働きかけている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設の特養へ入居された方のところへは、入居者と一緒に遊びに行ったり、家族が面会に来られた時にお会いした時は、その後の様子を伺っている。	○	馴染みの深かった利用者のご家族の方には、暑中見舞いや年賀はがきを出している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から意見を聞いたり、困難な時は家族からお聞きし、本人の立場で理解している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に自宅へ訪問したり、本人や家族から聞き取りをしている。入居後も会話の話題として取り上げ、把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活状況の中で、出来ること、出来ないことを把握している。出来ることは継続出来るよう、出来ないことに関してはどんな工夫で出来るようになるかを考え、能力を発揮できるよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で意見交換をしたり、家族からの情報を生かし、介護計画を作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に変化があった場合は、随時見直しを行い、家族の意見、要望も伺い計画に取りいれている。	○ 変化がない場合でも、月に一度のミーティングを行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルがあり、バイタル表には食事・水分・排泄の記録を残している。日々の暮らしの様子や利用者の状況変化等は、ケア記録に記載し、情報を共有しそれを基に介護計画の見直しに役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や入退院の送迎、母体施設の大浴場の利用など、入居者家族の状況に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の協力を得、防災訓練をしたり、産業文化祭りには作品を出品させていただいている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	週に2回、ヤクルト訪問販売や月に2度、理美容サービスを利用している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師については、本人の病気によってそのまま変更せず、継続した治療が受けられるようにしている。家族の希望により柔軟な対応が出来る事業所の協力医に変更する場合もある。その際は状況提供を頂いている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	1週間に1回往診してくださり、支持や助言をいただいている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護職員と密に相談しながら、日常の健康管理に努めている。夜間帯も連絡が取れる体制となっている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、本人の普段の状況や特徴など伝えている。入院中は家族、病院に状態を伺い、回復状況を把握し、速やかな退院支援に結びつけている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現地点で終末期の方針はとっていないことは、入所時に説明し同意を得ている。重度化、終末期のケアが必要とされる早期の段階で家族・医師と話し合いながら今後の方向性を決めている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化していく中で、事業所で対応できなくなる前に、必要とされるサービスの情報提供や紹介など必要な支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境と関わる方々が変わることで、本人に大きなダメージを与えない為に今までの生活状況や対応の仕方など適切な情報を提供している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの声かけなど、他の方にわからないようにそっと声かけしている。居室に入る際はノックをしてから声をかけ入室している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思い、希望を表せる機会を増やせるよう否定しない状態で接している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・水分補給・体を動かす時間などある程度流れを決めてあるが、あくまでもその方のペースに合わせ時間にあてはまるようなことは柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着たい服を自分で選べる方は、本人の意向にそっている。また、決められない方の場合、アドバイスしながらその方らしい物を一緒に選んでいる。時には女性の入所者の方々にはお化粧をしていたいっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の買出しに行く時は、旬のものを取り入れた料理を作っている。食事の準備や片付けまで、力を発揮できる場面で手伝っていただき、職員と入所者と一緒に同じものを食べ、話を弾ませている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入所者一人一人の嗜好品を理解しており、状況に合わせて提供している。第1は食事がきちんと摂れるよう、おやつ・水分の量、時間を考え提供の支援をしている。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を作成し、個々の排泄パターンに添ってトイレの声がけや誘導をしている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しんでいただくために、一人一人の好みの温度調節をしたり、せかさなような対応を心がけている。寒い時期には脱衣所を温めておくなどの配慮をしている。	○	入所者ほとんどの方が、介助が必要ではあるが、意思決定ができる方には好きな時間帯に入浴されたり、気分転換を図る為、施設内での大浴場で入浴している。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ゆったりとしたい気持ちを大切にしながら、その方に合った活動に参加されるよう促し、生活のリズムを整えている。寝衣に更衣の際、温かいタオルを提供し、顔・手など拭いていただき、気持ちよく入眠出来るよう促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に1～2度ドライブや楽しみ事の計画を立て、気晴らしができ、事前にカレンダーの横にお知らせを貼っておき、その日が来るのが楽しみに過ごせるよう働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使わなくてもお金を持っていることの安心感や話に遠慮することなく、自分の財布からのお金を払う買い物の楽しみなど、お金を持つことの理解はしている。買い物の際は必要金額を財布に入れ、見守りのもとで支払いを行っている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外を歩くことが困難な方でも、車椅子を利用し、外の風にあたり気分転換できるよう支援している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブ行事を企画する時は、入所者の希望を参考にしている。その中で外食や弁当を持参し、普段と違う食事を取り、楽しんでもらっている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、暑中見舞い・年賀状を出す支援を行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	明るく笑顔で迎え入れ、気兼ねなく過ごせる場をセッティングしている。帰り際には、いつでも気軽にお越し下さい等の一言を添えている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修報告会の場で、理解し周知している。危険行為のある入所者について会議を開き、様々な対策案を出し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関先へ向かい、外に出たい雰囲気を感じた時は、一緒に外に出て会話を楽しみながら歩き、自然に戻るよう促している。スタッフで声を掛け合いながら見守りを徹底している。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、居室に来られる方には、ティータイムの声がけをし徘徊の強い方に対しては、所在の確認をしながら様子を見ている。夜間は2時間、必要な方は1時間毎巡回している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒液、薬は施錠できる場所に、包丁や裁縫道具等は使いたい意思がある場合、保管場所を決めておき、すぐに取り出してあげられるようにしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティングの時に、事故防止について一人一人の入所者の状況を話し合っている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に一度、消防署の協力を得て、救命講習を全職員が受けている。緊急時の対応マニュアルを作成し周知している。	○	知識はあっても、実際急変にあたることも少なく、いざという時は冷静に対応できるよう、1～2ヶ月に一度シュミレーションしながら訓練していきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。地域の協力を得られるよう、運営推進会議で自治会を通し、呼びかけていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者の方の起こり得るリスクについてどのような対応をしているかを説明し同意を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行っている。その他にも日常の入所者の様子を把握しており、顔色、食欲、体の動きなどからも変だなと感じる時は再検し、併設施設のナースへ報告し早期対応に心がけている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに閉じ、全職員で周知している。薬は入所者ごとに整理し、毎食ごとに服用の確認を確実にしている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方が多いため、繊維質、牛乳・水分補給の取り入れに努め、適度な運動をし、自然な徘徊が出来るよう取り組んでいる。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは、入所者の出来る事、出来ない事を理解しており、部分的に介助している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量はチェック表に記入し、その方にとって不足している時は、捕食するよう職員間で対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人全体で感染予防のマニュアルがあり、手洗いを第一に実行している。インフルエンザ、ノロウイルスの流行時期にはミーティングを行い、感染予防に努めている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、夕食後にはハイターを利用し、調理器具の消毒を行っている。また、食事調理の担当者が朝、食材の消費期限を点検し、無駄なく使用出来るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、気持ちよく出入りできるように心がけている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、季節ごとでその時期にあった飾りつけをし、季節を確認できるよう働きかけている。椅子を引いた時に出る不快な音を防ぐため、脚に布をまいている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関フロアにソファを置いている。ゆったりと静かに過ごしたい方が利用されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家族写真や手作り作品を飾ったり、本人が使いや すい家具の配置にしている。使い慣れた家具の持 込も自由になっている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう 換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	リビングに温湿度計を設置し、換気の目安にして いる。換気により冷たい空気が入り込むことで、 不快に感じられる方もおり、衣類調整を対応して いる。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	物干しは折りたたみ式の物を利用し、廊下・トイ レには手すりがあり、浴室にはすべることの恐怖 を取り除くため、すべり止めマットを活用してい る。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室とトイレが同じ並びになっているため、トイ レにはトイレ用の名札をつけ、居室にも入所者の 目線に合わせ名札を表示している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	ホームの玄関脇に家庭菜園が出来る小さな畑があ り、収穫を楽しみにしている。また、建物内には 庭園があり、天気の良い時は時々散歩に行ってい る。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)